〇令和２年度　福島小学校　経営ビジョン

自分で考え、自分で決められる子どもを育てる学校

人口減少やAIの発達により、社会は私たちが今まで経験したことがない大きな変化を迎えようとしています。そんな社会を生き抜く力を子どもたちにつけていくことが、私たち教師に、学校に求められています。そして、これからの社会を生き抜く力とは、答えのない問いに対して考え続ける力であり、それを支えるのが学びです。言い換えると、学校は子どもたちの学びを通して、どんな問題に対しても諦めることなく考え続ける力を子どもたちに育むということです。

哲学者の鷲田清一は「哲学の使い方」の中で、学ぶ＝教養という視点で以下のように述べています。

『「教養」とは、一つの問題に対して必要ないくつもの思考の補助線を立てることができるということである。言い換えると、問題を複眼で見ること、いくつもの異なる視点から問題を照射することができるということである。このことによって人の知性はより客観的なものになる。そのためには常日頃から、じぶんの関心とはさしあたって接点のない思考や表現にふれるよう心懸けていなければならない。』

このように考え続ける力を育むためには、役に立つとか役に立たないとかは関係なく幅広く学ぶことが大切になります。

福島小学校は、「子ども一人ひとりの考えや生き方を大切にする」ことを基盤に、どの子にとっても居心地のよい学校づくりを進めます。そして、学校目標「明るく　正しく　たくましく」の具現のために、「いつも明るく元気な子ども」「助け合い、気づき、考える子ども」「健康で、最後までねばり強くやりぬく子ども」の育成をめざし、令和２年度は、重点を３つ設定し取り組んでいきます。

一つ目は『多様な授業の推進』です。昨年度から導入した５，６年生の一部教科担任制と３，４年生の算数少人数学習では、子どもたちから「分かりやすい」との評価があり、学年末のCRTの結果からも、３，４年生の算数はともに昨年度を上回り、５，６年の理科、６年の算数と社会も昨年度を上回り、成果が見えてきています。５，６年生では本年度も、理科・音楽・家庭科に加え、各担任が算数と社会・英語を担当した教科担任制を行います。ま

た、３年生は習熟度別の算数少人数学習を行い、基礎力の定着を図ります。本年度４年生はランダムに分けた３つのグループで、互いの考えを出し合って進める算数の少人数学習を行い、思考力の向上を図り高学年につながるようにします。また、オープンスペースを活用した学年授業も積極的に取り入れ、自由進度学習の研究を三岳小学校と共に進めながら、自律的に学ぶ子どもの育成を図ります。

二つ目は昨年度に引き続いて『生活・総合的な学習の時間の充実』としました。本校が大切にしてきた地域学習（郷土の学習）を中心に、本年度は子どもたちに出合わせたい地域の大人を設定した年間の構想を各学級で立案します。生活科では、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉えたり、自ら働きかけたりしながら、自立し生活を豊かにするための資質・能力を育みます。総合的な学習の時間では、子どもが日常生活や社会（地域で働く大人など）との関わりの中から問いを見いだせるようにして、課題解決学習を進める中で、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育みます。そして、このような学習を通して地域の大人と関わり、人を通して子どもたちに福島のよさを学んでほしいと願っています。

三つ目は、『自主学習の推進』です。中学 3 年生が入試に向けた家庭学習を進める際に、「どう勉強したらいいか分からない」という悩みをよく話すことがあります。このことは、家庭学習がいつも教師側から与えられていたため、自分で計画を立てて学習する力が身についていないことが考えられます。そこで、昨年度「自主学習」を家庭学習に取り入れました。高学年を中心に、工夫された自主学習が見られるようになってきました。そこで、本年度は「自主学習の推進」を重点として、木曽町中学校と連携を図りながら自主学習を進め、子ども自ら選び計画的に進める家庭学習を目指します。

このような学校経営を支えるものとして、職員が研究テーマに沿った自己課題を設定し、自主的な一人一公開授業を通して、具体的な取り組みとして提案することを進めます。また、重点研究グループを中心に日常的に授業を見合い、職員研修係を中心に、それぞれの得意なことを基に研修し、互いに高めあう集団をつくります。そして、木曽福島型コミュニティースクールを更に機能させ、子どもが大人から学ぶ機会を積極的に設けていきます。

これからの大きな社会の変化を、子どもたちが不安なものとして受け止めるのではなく、それぞれのよさを生かせる社会になると捉えられるように、福島小学校は、「自分で考えること　自分の考えを伝えること　大人から学ぶこと」を大切にして教育活動を進めていきます。